

子宮頸がん予防ワクチンはお早めに

2011.08.02

函館近郊の夏はちょっと寒いですね。でも、病気では例年通り。手足口病やヘルパンギーナなどが流行中です。東京方面では麻しんや風疹の流行が伝えられ、年長さん、中学1年生、高校3年生に行われている麻しん風しん混合ワクチンをまだ受けていない方はぜひ夏休み中に終わらせてくださいね。楽しい夏休みが麻しんにかかって命を落とすでは子どもたちがうかばれません。

今年の2月に緊急経済対策の一環として急遽決まった子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンですが、何やら先行き不透明です。もともと平成24年度以降のことについては何も決められずに始まったものだから、本州方面の一部自治体では制度が今年度いっぱい終わるものとして広報しているところもあります。

先日の厚生労働委員会で細川大臣は来年度以降の継続をほのめかしたようですが、厚生官僚はこの発言のあと慌てふためいて財源を協議しているということが漏れ伝わってきています。

子どもを病気から守ること、守れる手段があるのに守らないことは親の行動としては考えなければなりません。経済的理由であれば、しかたがないのかも知れませんが、ばらまくお金があるのなら目的をもって税金を活用するのが、政府の役割であり、議員を選んでいる市民が最終的に責任を感じなければならぬことなのかも知れません。

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンは接種が始まったことで髄膜炎の発生やそれによる合併症の発生が減少していることがすでに報告されて効果が目に見えていいのですが、子宮頸がん予防ワクチンの効果が見えるのは約20年後です。理論上の効果は明らかなので、接種を希望しているのであればお早めに接種を始めましょう。特に補助年齢の上限のお子さんは継続するしないにかかわらず、9月までに第1回目が終わらなければ、補助の対象外となる可能性が大ですので、是非早めのご予約を。